みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

8. 総合研究大学院大学

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009679

8 総合研究大学院大学

国立民族学博物館（民博）には、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。民博に基盤をおく２専攻は、長期のフィールドワークで得られた資料に基づき博士論文を作成することを目的とし、個別の教員による授業や研究指導と、複数の教員の指導のもとに行われる共通のゼミナールを通して、広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしている。

本年度の文化科学研究科長は、地域文化学専攻（民博）の池谷和信がその任にあたり、地域文化学専攻長は樫永真佐夫、比較文化学専攻長は宇田川妙子が務めた。

●葉山キャンパス・文化科学研究科の動き

2019年度、総研大は設立31周年を迎え、国立大学法人化16年目を迎えた。

総研大本部のある葉山キャンパスにおいて、入学式に続き、新入生を対象とする合宿型の集中講義「フレッシュマン・コース」が開催された。本年度は、地域文化学専攻、比較文化学専攻から新入生それぞれ１名が参加した。

文化科学研究科においては、かねてより連携強化が図られ、2005年度から文部科学省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」事業として専攻を横断して「総合日本文化研究実践教育プログラム」が２ヵ年実施された後、2007年度より「文化科学研究科連携事業」が始まり、民博に基盤を置く２専攻もこれに参加してきた。2019年度は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』第16号が刊行され、地域文化学専攻在籍生の論文２本、資料紹介１本が掲載された。また、「総研大文化フォーラム2019　境界を行き交う知」を2019年11月30日、12月１日に国文学研究資料館（東京・立川市）で開催し、地域文化学専攻の１年次生１名、比較文化学専攻の１年次生２名が学生企画委員として、その企画立案から準備・運営全般に携わった。さらに「学術資料マネジメント教育プログラム」として、文化科学研究科の各基盤機関が所蔵する学術資料を活用し、高度な知識と技術の習得ができる授業が開講されており、本年度は比較文化学専攻の飯田　卓准教授による「学術映像の基本」、園田直子教授による「資料保存学」が開講された。

第69回教授会（2020年２月28日）において地域文化学専攻から１名、比較文化学専攻から２名の課程博士が承認された。

●教員の異動

小野林太郎准教授、奈良雅史准教授が、2019年４月１日付で地域文化学専攻担当になった。同じく４月１日付で、鈴木　紀、山中由里子が教授に昇任した。小長谷有紀教授は民博退職に伴い、2019年３月31日付で総研大教員の併任解除となった。

吉岡　乾准教授が、2019年10月１日付で比較文化学専攻担当になった。

寺田吉孝教授は民博定年退職に伴い、2020年３月31日付で総研大教員の併任解除となった。

●学位の授与

【課程博士】

查斯查干（チャスチャガン）（地域）『オイラド・モンゴルにおける口頭伝承とアイデンティティ――故郷創出物語から』［文学］

〔審査委員〕太田心平、韓　敏、新免光比呂、
小長谷有紀（独立行政法人日本学術振興会　監事）、
藤井真湖（愛知淑徳大学交流文化学部　教授）

劉征宇（リュウセイウ）（比較）『中国都市部の家庭の食生活に関する歴史民族誌――社会主義制度下（1949-2018年）の天津市の事例』［文学］

〔審査委員〕野林厚志、池谷和信、樫永真佐夫、
朝倉敏夫（立命館大学食マネジメント学部食マネジメント学科　教授）、
西澤治彦（武蔵大学人文学部日本・東アジア文化学科　教授）

辺清音（ヘンセイオン）（比較）『神戸南京町50年の民族誌的研究――包摂的チャイナタウンの生成と変容』［文学］

〔審査委員〕南 真木人、太田心平、河合洋尚、
大橋健一（立教大学刊行学部交流文化学科　教授）、
張玉玲（南山大学学国語学部アジア学科　教授）

●学生の就職状況

学生の受入を開始した1989年以来、2020年３月末日までに地域文化学専攻・比較文化学専攻を巣立った131名の修了生および退学生のうち、合計71名が常勤の教育研究職に就いた。内訳は、国立大学17名、公立大学７名、私立大学34名、海外等その他の機関７名、歴博１名、民博３名、地球研１名、人間文化研究機構１名である。

●入学者選抜試験

2020年度入学者の選抜試験には、地域文化学専攻４名、比較文化学専攻２名、計６名の志願者があり、地域文化学専攻３名、比較文化学専攻２名、計５名の合格者を第69回教授会において決定し、５名が入学手続きをとった。入学定員（各専攻３名）に対する出願者の倍率は1.０倍（合格者に対する倍率は1.２倍）であった。合格者、「志望研究題目」、（主任指導教員、副指導教員）は以下の通りである。

【地域文化学専攻】

岩下夏岐

「タイの高齢化対策を実践する医療福祉現場の民族誌的研究」

（平井京之介、鈴木七美）

金丸雄一

「日本列島における海士・海女の民族誌的研究」

（池谷和信、野林厚志）

澁谷美和

「国際退職移動した日本人の移動先における人的交流と相互扶助に関する研究」

（平井京之介、鈴木七美）

【比較文化学専攻】

服部裕規

「ヨウヒッコの時空と精神――現代フィンランドで再興する古楽器パフォーマンスの民族誌」

（福岡正太、新免光比呂）

ELMER（エルマー）, PATRICK（パトリック）

「The Origins of the Japonic Language family and its relationship to Austronesian and Koreanic.」

（菊澤律子、野林厚志）

2020年度入学者も、ここ数年と同様、研究対象である現地での経験を持つ者が多い。出身大学の内訳は、公立１名、私立２名、海外２名で出身大学院の地方別では、関東、中部、九州、海外となっている。

2020年３月現在、地域文化学専攻と比較文化学専攻それぞれ16名、あわせて32名が在籍しているが、このうち３年次以上には両専攻あわせて20名がいる。これは、教育研究の柱としている長期フィールドワークにそれぞれ出かけているためである。

2019年度は、館内でオープンキャンパス（入試相談会／2000年度から開催）を９月20日に開催した。総研大および民博の概要説明、施設見学、在学生・修了生・教員との懇談会等が行われた。参加者は16名で関東、中部、九州、海外からと多岐にわたった。

●日本学術振興会特別研究員（DC2）への採用

2019年度は地域文化学専攻　拉加本、比較文化学専攻　星野麗子が日本学術振興会特別研究員（DC２）に採用された。

●地域文化学専攻・比較文化学専攻教員数（2020年３月現在）

専　攻	専攻長	担当教員数
地域文化学専攻	1	23
比較文化学専攻	1	24（基盤機関の長である民博館長を含む）

●地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生（2020年３月現在）

専　攻	入学定員	現　員			計
		１年次	２年次	３年次	
地域文化学専攻	3	2	5	9	16
比較文化学専攻	3	3	2	11	16

●年度別学位記授与者数

	地域文化学専攻		比較文化学専攻		計
	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
1991（平成３年）年度			1		1
1992（平成４年）年度					0
1993（平成５年）年度			1	1	2
1994（平成６年）年度	2		1		3
1995（平成７年）年度	2		1		3
1996（平成８年）年度		3			3
1997（平成９年）年度	3		4		7
1998（平成10年）年度	4	2			6
1999（平成11年）年度					0
2000（平成12年）年度	2		2	1	5
2001（平成13年）年度	1	1	2	1	5
2002（平成14年）年度	1	1		2	4
2003（平成15年）年度					0
2004（平成16年）年度	2	3			5
2005（平成17年）年度	4	2		2	8
2006（平成18年）年度	2		3		5
2007（平成19年）年度	2	1	3		6
2008（平成20年）年度	1		1		2
2009（平成21年）年度		1	1	1	3
2010（平成22年）年度	2		2	3	7
2011（平成23年）年度	3		1	1	5
2012（平成24年）年度	1	1	1	1	4
2013（平成25年）年度			1	1	2
2014（平成26年）年度	2	1	2		5
2015（平成27年）年度	3	1			4
2016（平成28年）年度	1	1	1		3
2017（平成29年）年度	1		1		2
2018（平成30年）年度	1				1
2019（平成31・令和元年）年度	1		2		3
計	41	18	31	14	104